

SMF Press

Vol.29 mar. 2017

あなたと
どこでも
アート
おかわり
プロジェクト



おむすびコロリン、おなかの旅



聴いて味わう 時空を超えるお茶の旅



エジプトの食と文化展&講演・交流会



まちの記憶をたどる ビール・味噌 麦のまち



宝船展Ⅲ@MOMAS(風のカタチ)



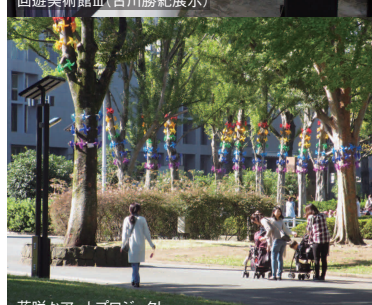
SMF学校 開校式(未来へ)



SMF学校 彫刻のできるまで(石上城行)



回遊美術館Ⅲ(古川勝紀展示)



花咲かアートプロジェクト



松本秋則さんと楽しむ気まぐれ音楽隊



空飛ぶトンちゃん大行進



色と形のコックさん〜作ってあそぼう
アートなトンネル〜



フナノ祭り(竹宵/フナノ保存会)



TANBOプロジェクト現場展



小野養豚 食堂展



旅するキノコ in 氷川参道

忙しい1年でした。「あなたと どこでもアート」、僕らの周りにあるにげないアートを探し出すこともテーマの一つです。気取って言えば生活文化、その根っこにある衣食住を1年ごとに追っ掛けてゆき、最後の「食」が「おかわりプロジェクト」、振り返ればもっとも人間らしい「住」に始まって、生きるために不可欠な本能の「食」に終わった3年間でした。アートは人の理性が本能を思い出すための触媒だと思います。だから動物的な欲求が勝った「食」は難解なテーマでした。過去2年と異なり、核が無く多彩なプロジェクトに彩られたのはそうした理由からだったろうと思います。

北浦和では食べてから排泄までの生理をカリカチュアに演じ、入間では懐かしいSPレコードの音色の中で茶の世界を鑑賞、川越ではエジプト料理を堪能し、川口では熟成された麦の道を歩き、うらわの手慣れたワークショップでは色と形の調理で多世代が交流する。これら5館連携プロジェクト以外にも、見沼では壮大なTANBOプロジェクトが展開し、市民会館おおみやの怪しげな地下でピンク色の子豚たちが空を飛び、多数の卵の殻にその数の思いが記されて並び、氷川参道には光るキノコが大量発生したOMIYAプロジェクト、梶子蕎麦のように次々とおかわりが注ぎ足されたこの1年でした。

忙しかったもう一つのわけはさいたまトリエンナーレにSMF学校で参加したためです。その授業で存外だったのが、聴講者の多くが建築を文化として見ていなかったこと。「住」と同じく「建築」も人間らしい行為で、それが人間くさくなると経済行為と見間違えられるからです。銘木趣味の数寄屋が行き過ぎると銭の匂いがすると揶揄されるに似ています。アートのコロンでその体臭を消すのでしょうか、そのアートを経済的に成り立たせる手法、それがまさしく次年度のテーマになるのだと思います。

なお肝腎なSMF学校の詳細は、プレス27号・28号をご覧下さい。
(K.M)

1年を振り返って

今年度の「おかわりプロジェクト」で SMFは10年目を迎えました。



「おかわり」って便利な言葉で、2~3
度楽しめる気がします。だから「食」
にこだわらず、自由な発想のテーマ
で継続するのも面白いかもです
ね！そこで次は「おかわり自由プロ
ジェクト」！なんてどうでしょうか。

SMF学校、忙しかったけれど、理
事長は1回やるとやめられませんな。
学校修了で失職、残念無念

これまでを振り返ってみると、SMF
がなければ行かないところへ行っ
たし、出会わない人に会ったし、聴
かない音を聴いたし、見ないもの
を見ました。初めのころ「SMFはアー
トのプラットフォーム」という言い方
にじっくりしない感じでしたが、
今はなるほどと思っています。これか
ら楽しみます。

市民や子どもたちとアートをつなぐ
ワークショップの開催を継続して来
ましたが、最初は躊躇しながら、その
うちに目を輝かせながら物づくりに
取り組む姿に、アートの力を見まし
た。アーティストと参加者相互のコ
ミュニケーションが深まり、素材への
理解、美しさ、作る楽しさを感じられ
るSMFのワークショップでした。

多忙にかまけて流れていくだけの時
間のなんと多いことか、と気づいた
頃には高齢者の仲間入りというの
が世の常ですが、SMFのおかげで
10年くらいは早く、時間泥棒から少
しずつ時間を取り戻す術を学び、た
くさん楽しませてもらいました。何の
疑いも抱かないルーティンな思考
や習慣的な行動に、えっ！そんな
もあり！と気づかせてくれる素敵
な仲間たちと、まだまだ遊んでいたい
ものです。

この1年は、SMFの立ち上げから
ちょうど10年となる節目でした。この
10年を振り返ると、SMFの発展と
もに、個々に関わってきた人々それ
ぞれの成熟を実感するとともに、そ
の成熟を通して見えてくるさらなる
課題が出現して、そういう壁をひとつ
ひとつ地味に超えていくとまたもや
さらなる成熟を迎えるのだと感じて
います。今後はますます楽しみにさ
せてくれる1年間でした。

「ヒアジンスハウスの会」が2006年
に実施した「さいたまアートぶらっと
に実施した「形成準備事業」がSMFの
ふおーむ形成準備事業」がSMFの
源流です。個人的には「Café」や
「ARDA」、「ヒアジンスハウスの会」
に続いて最初の事務局を務めた四
つ目の会で、こうした活動もかれこ
れ20年ですが、「SMF」がいちばん
長く関わり、いちばんたくさん楽し
せてもらったプロジェクトになりまし
た。本当にありがとうございました。

アーティストとの相互作用により市
民の1日が豊かになったのは、火を
見るよりも明らかだった。現場に居
合わせた誰もが、たくさんの笑顔
を目撃していたらう。埼玉が少しず
つ、楽しい場所になっていく。

文化庁のモデル事業やSMFの主催
事業以外にも、ここで知り合った関
係者が協働してイベントを開催し新
たな作品が誕生した、ということもた
くさんありました。社会的な認知やひ
ろがりをどのように獲得するかは
SMFの継続的な課題ですが、活動
趣旨に沿ってプラットフォームとして
の役割を果たしてこられたことは、メ
ンバーのみなさんの活発な活動のた
まものと心から感謝しています。

美しい風車が立ち並んだ「アートの
風・増殖計画」から、軽やかな野面
石の「風のカタチ」の構想まで、これ
からもさわやかなアートの風を運ん
でください。

派閥や徒党を組んで権力を志向し
たり、密室で誰かが鉛筆をなめてヒト
やカネを差配したりする垂直の構造
と、アートは対極のものだ。それぞれ
と、アートは経験、意欲と創造力が結
び合い、水平に広がっていく。SMFは
そういう場であり続けてほしい。

年数を積み重ね、市民の方々の参
加のしやすさと、ワークショップやパ
フォーマンス、講座、展示などの質
の高さ（深さ）の絶妙なバランスが
生まれつつあると思います。

連携美術館 情報

入間市博物館ALIT

「旧石川組製糸西洋館」「旧黒須銀行」特別公開！
4/9、4/15、4/16、5/20、5/21

※4/9は西洋館のみ公開

入間市を代表する
近代化遺産である二
つの建物を期日限定
で公開します。全日程
で西洋館2階部分の
見学もできます！旧黒



旧石川組製糸西洋館

川越市立美術館

「驚きの明治工芸」(予定)
4/22~6/11

細密、写実的な表現で近年人気の高い明治時代を
中心とした日本の工芸作品。この「明治工芸」を収集し
た台湾のコレクター「宋培安(ソンペイアン)」のコレク
ションから、華麗で繊細な技巧をつくした名品約130件
を紹介。全長3メートルもある世界最大の龍の「自在
置物」をはじめ、漆工、金工、木彫、陶磁、七宝、染織
など多彩な作品ひとつひとつが魅力を放つ、驚きが
いっぱいの展覧会です。



《色絵金彩龍鳳置物》宮川香山

埼玉県立近代美術館

「ロシア科学アカデミー図書館所蔵 川原慶賀の植物図譜」
4/8~5/21

長崎の絵師・川原慶賀は江戸時代後期、出島の出入りを許
され、オランダ商館の求めに応じて膨大な数の絵画を制作して
いました。植物図譜をはじめ長崎の風景や暮らしを描いた作品は、
慶賀が鋭い観察眼と高い技量を持っていたことを物語っています。
本展ではロシア科学アカデミー図書館が所蔵する慶賀の植物
図譜から125点を紹介するとともに、国内所蔵の作品・資料を
通して、慶賀の眼が何をみつめ、どのようにうつしとっていたのか
をたどります。



川原慶賀(ソクシヤクナゲ)
1824-1828年、ロシア科学アカ
デミー図書館蔵
(Russian Academy of Sciences
Library), St. Petersburg 2017

川口市立アートギャラリーATLIA

「アートで解明！ 空気の正体」
3/11~5/14

身近にあるにも関わらずはっきりとしない「空気」の正体に迫
る現代アートの展覧会。部屋いっぱいに詰まった透明な巨大風
船の中に入ることができる体験型作品や、風力によって布が生
き物のように動き続ける作品、風景の中から謎の人物が浮かび
上がる映像などを展示します。「空気」とは一体何なのか、作品を
通して探ってみませんか？

